

令和3年度
秋葉区民幸福度調査（秋葉区の暮らしやすさに関する意識調査）

調査結果（速報版）

令和3年11月26日
秋葉区自治協議会
秋葉区民幸福度調査部会

1 調査の目的および調査主体

住み良い秋葉区づくりのための課題を明確にし、秋葉区の「特色ある区づくり予算」や、秋葉区が策定する「区ビジョンまちづくり計画」の基礎資料とすることを目的とし、秋葉区自治協議会からの提案により同協議会と秋葉区が実施するもの。

2 調査日程および回答数

(1) 調査票の発送による調査

期 間 令和3年8月10日発送～8月末締切
対象者 令和3年4月時点秋葉区在住15才以上の中から無作為抽出された2,000人
回答数 892件（うちWEBフォームでの回答 115件）
回答率 44.6%

(2) WEBフォームによる一般募集

期 間 令和3年9月6日～10月8日
回答数 143件

(3) 中学生対象調査（WEBフォームでの回答）

期 間 令和3年9月7日～10月8日
対象者 令和3年4月時点で秋葉区内の中学校に通う中学生1,966人
回答数 478件
回答率 24.3%

(4) 回答者属性（中学生を除く）

回答総数 1,035件

うち 男性 496件（48%）	秋葉区生まれ 503件（49%）
女性 533件（52%）	秋葉区外生まれ 526件（51%）
無回答6件	無回答6件

3 調査結果の概要(特に注目すべき点)※中学生を除く

- ① 秋葉区を「住みよい」とした人は68%で、逆に「住みよいと思わない」とした人は7%だった。回答者は秋葉区出身者が約半数であったが、移住者も含めた多くの人が住みよいと感じていることが窺える。(問2)
- ② 秋葉区を「住みよい」とした理由の上位は「災害が少ない」「交通上の利便性」「買い物や食事に便利」「自然豊かである」「犯罪が少ない」の5つが顕著であった。「災害が少ない」が挙がる背景には、河川の治水対策や消雪パイプの設置など、先人が行ってきた災害対策の成果があると考えられる。(問2)
- ③ 「幸せにとって重要なこと」は「健康」が最も多く、次いで「家族のつながり・調和」、「所得などの家計」が多かった。それぞれを満足度(「満足・ほぼ足りている」の割合)で見ると、順に58%、77%、41%となり、「家族のつながり・調和」が高い満足度を示している反面、「所得などの家計」では不満が満足を上回っている現状がわかった。(問7)
- ④ 秋葉区は仕事が見つかりやすく就業しやすい環境だと思うかの問いに、「思う」「まあ思う」が12%、「思わない」「あまり思わない」が38%と、就職環境に課題があることが窺える。(問9)
- ⑤ 住んでいる地域では困った人への助け合いはできていると思うかの問いに「思う」「まあ思う」が31%、「思わない」「あまり思わない」が20%、「わからない」と「どちらともいえない」を合わせると49%と、地域の助け合いについてはやや心配な結果となった。(問10)
- ⑥ 上記⑤の傾向を地区別に見ると若干の差異があり、助け合いができていると思う割合が最も高いのが新津第五中学校区と金津中学校区で33.3%、最も低いのが小合中学校区で23.5%だった。
- ⑦ 秋葉区内の文化施設に行ったことがある人が92%を占める一方で、歴史文化や芸術に接したり取り組む機会があると思う人は57%、知的興味や知識能力を伸ばす機会が整っていると思う人は33%と、施設利用と実感の間に乖離が見られた。(問14)
- ⑧ 日頃から環境に配慮した生活をしている人の割合は「している」「ほぼしている」を合わせて88%と極めて高い結果となった。(問15)
- ⑨ 災害時の避難場所や避難方法を知っている人は91%に上るが、地域で行われる防災訓練等に参加している人は42%、災害に対する備えや話し合いを行っている人は24%と、知識と実践の間に大きな乖離が見られた。(問16)
- ⑩ 「幸せである」「まあまあ幸せである」は合わせて83%、「幸せではない」「あまり幸せではない」は合わせて4%であり、高い幸福度が示された。(問19)